

Title	大型計算機センターの新築を祝って
Author(s)	城, 憲三
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 9 P.1-P.2
Issue Date	1973-02
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/65175
DOI	
rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

大型計算機センターの新築を祝って

大阪大学名誉教授 城 憲 三

昨年10月6日に催されました大型計算機センター披露式の招待状を頂き、喜んで列席いたしました。大型計算機センターが、自然の環境に恵まれた千里の丘に、全国共同利用の一施設として新築され、しかもその内容が従来よりもさらに充実されましたことは誠に同慶の至りです。なお、当日センターの設立、運営にご尽力頂いた方々とも久し振りに語り合う機会を得ることができ、懐かしく、有難く思った次第です。計算機に関する研究に戦前から携わっていたためか、定年退官するまで計算機センターのお世話をすることになってしまった私にとっては誠に感無量のものがありました。

大阪大学に計算センターを設置しようという会合が、非公式とはいえ正式に初めて持たれたのは昭和32年7月6日であったと思います。これは、「大阪大学計算センター準備会」と名付けられた、有志のみの会合でありました。このとき、文学部、経済学部、医学部、理学部、工学部からそれぞれ1～3名ずつの先生方が参集されました。当日の結論として、「総合計算共同利用施設」の新設を昭和33年度概算要求として要求することになりましたが、その内容はIBM計算穿孔機602A1台を含む特別設備費23,146,760円、特別経費所要額1,417,224円、合計24,563,984円というものでありました。この予算案には、計算機等の設備機械を設置する建屋の予算は含まれておりません。計算機室として約30坪の部屋を大学本部内にぜひ確保して頂くよう当時の総長正田建次郎先生に要望書を提出したのであります。

この計画は実現されませんでした。その後も各委員、大学本部経理部の方々と相談しつつ、国産機、外国機についていろいろ検討を加え、予算要求の内容を逐次充実させながら、昭和34、35、36年度概算要求書を文部省に提出いたしました。これらの要求は認められませんでした。

幸い、日本電気株式会社から計算機を無償貸与したい旨の有難いお申出があり、昭和36年6月、NEAC-2203基礎装置一式が工学部旧東野田学舎本館2階に設置されました。大阪大学における計算センターが実質的に発足したのはこのときからであります。定員は1名も認められていない状態でありました。

計算機購入予算が大阪大学に初めて認められたのは昭和37年度でありまして、NEAC-2206が昭和38年3月、旧東野田学舎に設置され、寄贈されたNEAC-2203とともに学内計算センターがようやく運営されることになりました。設置準備委員会が運営委員会へと改称されるまでに約6年間を要したのであります。

計算センターに関するその後の経過につきましては、大阪大学の計算機センター・ニュース

等にすでに紹介されております。ここで詳述することを避けますが、学内、学外の多くの方々のいろいろのご努力によって、全国共同利用の大型計算機センターが吹田学舎の一隅に設けられたのであります。

大学に設置されている計算機センターの運営につきましては、いろいろの難問題があることは存じますが、困難を克服しつつ、このセンターが今後ますます充実し、次元の高い開発を行ないながら発展されて行くよう切にお祈りいたします。

(昭和48年1月1日)